

富士川右岸におけるアオオサムシの記録

井村有希

Yûki IMURA: Record of *Carabus (Ohomopterus) insulicola* CHAUDOIR
from the Right Bank of the River Fuji-kawa,
Central Honshu, Japan

アオオサムシ *Carabus (Ohomopterus) insulicola* CHAUDOIR の本州太平洋岸における分布西限は、富士山南麓から愛鷹山にかけての地域とされているが、筆者は富士川下流右岸（西岸）において本種を採集しているので報告しておく。

12♂♂, 3♀♀, 静岡県庵原郡富士川町金山東北東麓, 東名高速道路富士川サービスエリア西方 (標高 80-100 m), 21-V-1989, 筆者採集。

当地は富士川の一支流に沿った北向きの緩斜面で、後方をヒノキの植林にとり囲まれたミカン畑となっており、50 個のベイトトラップを1週間設置して上記の結果が得られたものである。同時にシズオカオサムシ *C. (O.) esakii* CSIKI も 33♂♂, 43♀♀ 得られたが、アオオサは主としてミカン畑側の開けた環境に、シズオカオサはヒノキ林内の薄暗い場所に多く見られ、狭い範囲ながら微妙にすみ分けているように感じられた。アオオサは体長 27.8-31.3 mm と比較的大型、強壯で、色彩は緑色光沢を帯びた金赤褐色型が主体であり、1♂のみ緑色光沢の強いものが混じていた。愛鷹山周辺のアオオサが、小型で、色彩もシズオカオサに近くなり、両種の混生地ではときとして交雑個体が得られているのに対し、当地のものには外部形態、♂交尾器ともに雑種と思われるような個体は1例も混入していなかった。

アオオサの西限記録としては、小宮 (1975) による清水市内からの報告 (2♂♂, 3♀♀, 18-III-1967, 鈴木英文採集) がある。個体の特徴については触れられていないが、かなりとび離れた地点であることから、人為分布の可能性が示唆されている。今回得られたものも、その形態からはむしろ甲府盆地周辺などに分布する個体群に近いように思われ、人里に近い場所という点をも考慮に入れると、人為的に移入されたものが定着しているのかもしれない。本種は普通種であるにもかかわらず、分布辺縁における調査は意外に不十分なようである。今後、富士川下流域におけるより詳しい調査がなされれば、あるいは関西地方における *Ohomopterus* 各種の例に見るように、基盤山地にシズオカオサが、そしてその下方段丘面上に点てんとアオオサが分布している、といったパターンもありえないことではないように思う。

末筆ながら、参考文献の入手にご助力いただいた荒井充朗、富永修の両氏に厚くお礼申しあげる。

参 考 文 献

- 小宮次郎, 1975. 南アルプス静岡県側のオサムシ. 南アルプス奥大井地域学術調査報告書, 134-137.
富永 修, 1986 a. 東日本オサムシ分布地点表 (14), 静岡県, その 1. オサムシマップ, (24): 465-472.
——— 1986 b. 同上, その 2. *Ibid.*, (25): 504-519.